福岡市早良区高取２丁目所在

藤崎遺跡 第２次調査概報

福岡市埋蔵文化財調査報告書第496集　1996

高取二丁目遺跡調査会
福岡市教育委員会

～序　文～

博多湾の西部に位置する藤崎・高取・百道一帯は、海岸線に砂洲が発達しており、これらの古砂丘上には弥生時代から鎌倉時代までの間に営まれた藤崎遺跡が存在します。

古くは明治時代から大正時代において箱式石棺より三角縁神獣鏡、方格規矩渦文鏡などが出土した他、弥生時代の古式甕棺墓や壺形土器等の貴重な遺物が発見されています。

今回の第２次調査では甕棺墓の他に、九州最古の方形周溝墓や成人頭骨を埋葬した甕棺墓等が出土しており、奴国における重要な拠点集落の存在を伺わせるものです。

本書が、市民の埋蔵文化財保護に対する理解と認識を深めていただけるよう、ご活用頂ければ幸いに存じます。

平成９年３月31日　　福岡市教育委員会
教育長　町田　英俊

藤崎周辺航空写真（平成５年）

Ⅰ　はじめに

藤崎・高取地域の古砂丘南側には、紅葉八幡社が祭られた独立丘陵が位置しており、藤崎遺跡は、この丘陵北側裾部を基点として、東西に500ｍ、南北に700ｍの範囲を占めている。

当該地は、この砂丘上を東西に貫いている国道202号線に面した専用住宅地で、当時、地下鉄１号線の開通に合わせてテナントビルへの改築準備が進められていた。当該地の北側では、地下鉄工事に伴う発掘調査を実施していたので地権者の承諾を得て、家屋解体後に試掘調査を実施した。

その結果、甕棺墓及び、古墳時代以降の整地層を検出したため地権者、及び工事責任者の竹中工務店との間で遺跡の保存協議を行い、発掘調査を実施するに至った。

Ⅱ　発掘調査の組織

調査委託者　弘中　治

調査主体者　高取二丁目遺跡調査会（福岡市教育委員会）

会　長　　清水義彦　（社会教育部文化課長）

事務局　　三宅安吉　（埋蔵文化財係長）

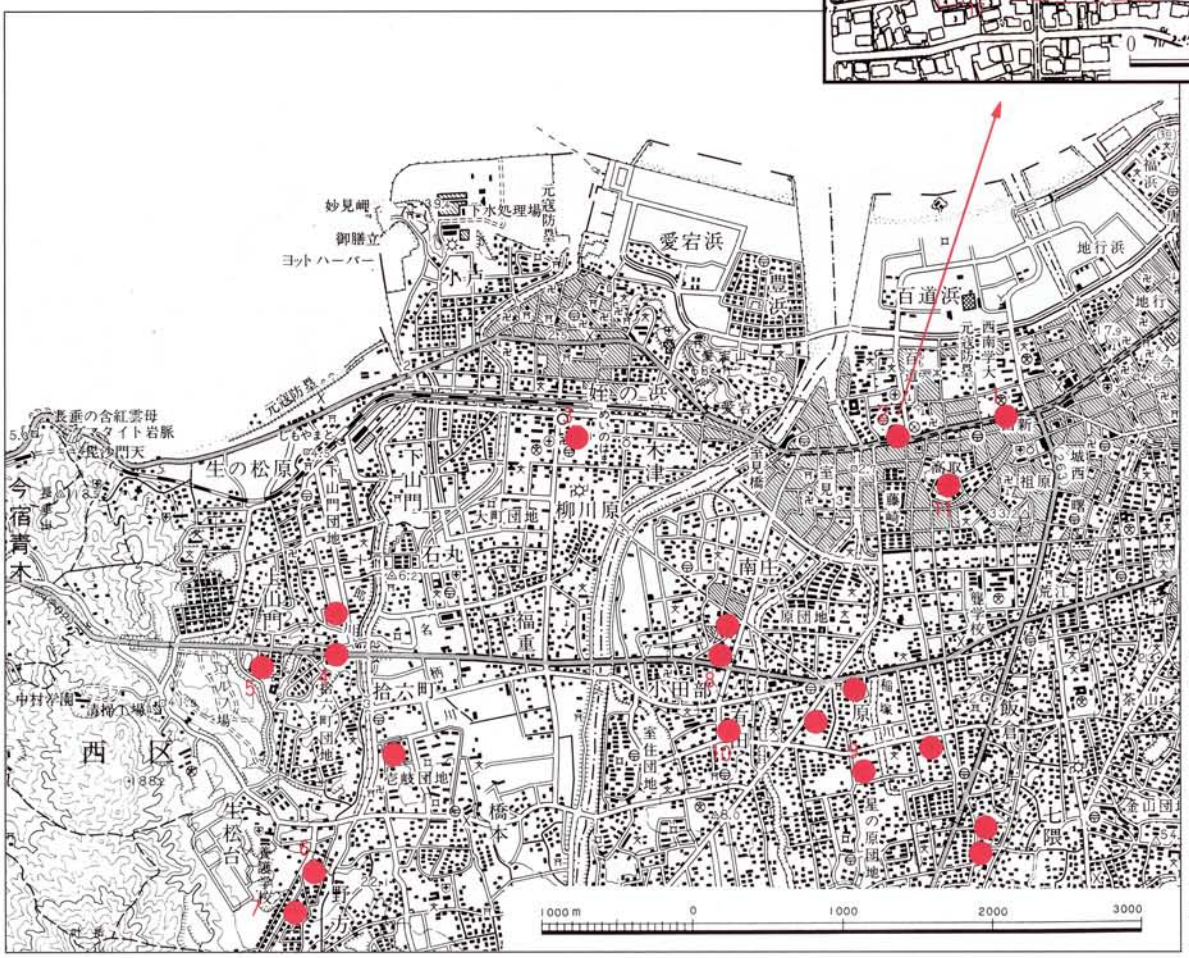
　　木村義一　（庶務）

調査担当　塩屋勝利、井澤洋一（事前審査）

藤崎遺跡分布図

＊▲は明治･大正時代の発見地点

（番号は調査次数を表す）



1．西新町遺跡
2．藤崎遺跡
3．五島山古墳
4．拾六町湯納遺跡
5．宮の前遺跡
6．野方中原遺跡
7．野方塚原遺跡
8．松浦殿塚古墳
9．原遺跡
10．有田・小田部遺跡
11．紅葉八幡宮

周辺遺跡分布図（縮尺1/50,000）

Ⅲ　調査概要

発掘調査は昭和52年８月18日から９月15日までの期間に実施した。

遺跡は、標高４ｍを測る砂丘頂部からわずかに南側に下った緩斜面に位置する。遺構面上の堆積土は、①層 表土（黒色土）、②層 暗褐色砂質土、③層は黒色土と黄白色砂のブロックを含む暗茶褐色砂層、又は淡黒色砂層、④層は砂の粒子が細かい暗茶褐色砂層、⑤層が地山の黄白色砂層の層序となっている。

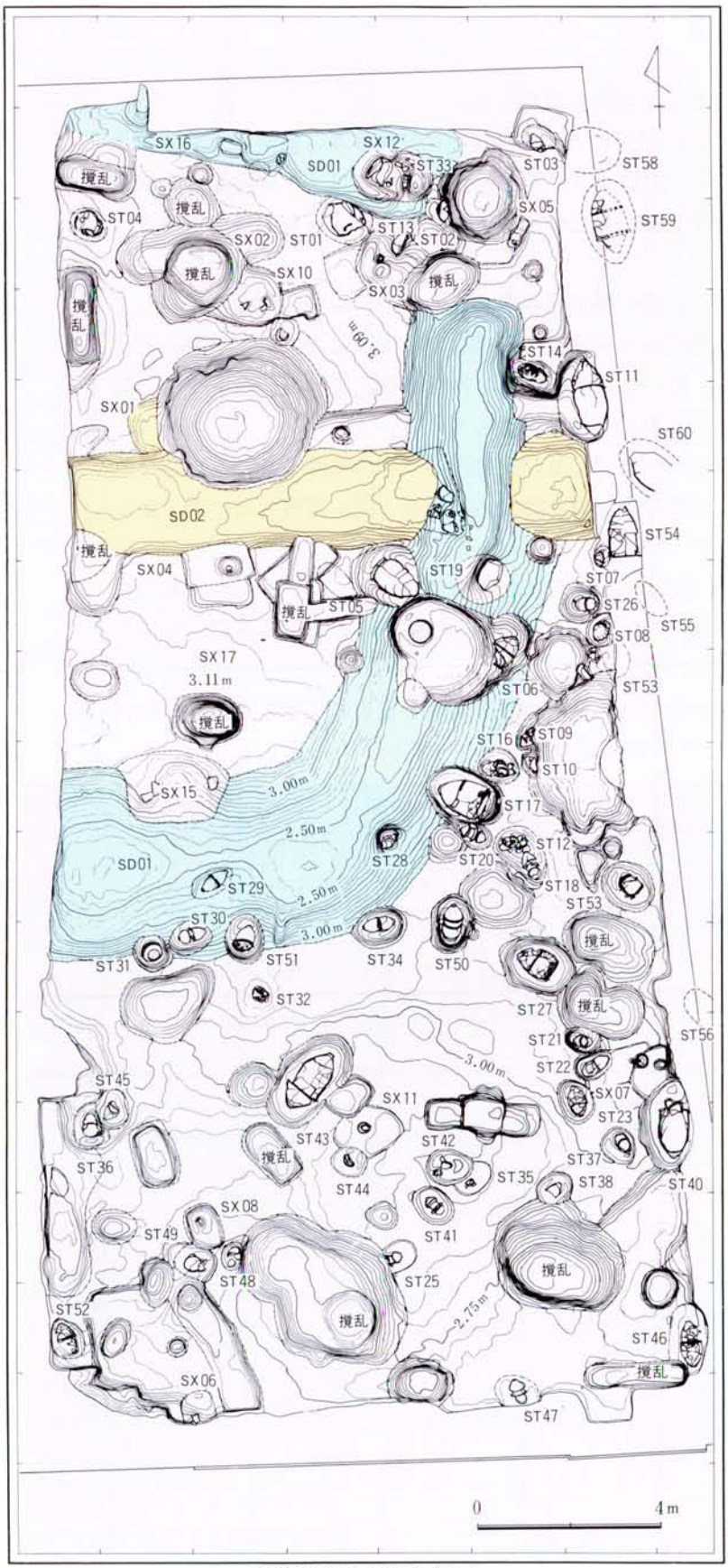
これらの層には各時代の遺物を含んでいるが、特に調査区の南側においてのみ地山直上に堆積していた黒色砂質土層、暗褐色砂層からは、弥生時代から中世までの遺物がたくさん出土した。特に管状土錘は一種類に限られ、150点出土している。又、近世の遺物では古伊万里、唐津焼、高取焼等の陶磁器や窯道具の他、土師質土器焙烙、土鈴等の土製品も多く出土している。

遺構の時期は、弥生時代前期から江戸・明治時代までに及び、弥生時代の土壙墓８基、石棺墓２基、甕棺墓63基、方形周溝墓１基、古墳時代以降の整地層、鎌倉時代の土壙墓１基、東西方向の溝１条、江戸時代から明治時代の井戸３基等を検出した。

調査区北側の大部分を占める矩形に巡る溝 SD01は、全体形を把握できなかったが方形周溝墓の周溝と考えられる。当該遺跡の西側に隣接した第７次調査（昭和58年）では、この方形周溝の一部分を検出している。主体部は土壙墓 SX04や甕棺墓等が考えられる。

甕棺墓は調査区全体に分布している。時期は弥生時代前期から後期前半までの幅をもち、この内の前期甕棺墓と中期の甕棺墓は方形周溝墓 SX17の溝 SD01と切り合っている。

調査区全景（南から）



遺構配置図（縮尺1/150）

方形周溝墓　中世の遺構

1．各時代の遺構

① 弥生時代前期～後期
　甕棺墓63、石棺墓２

② 弥生時代前期～中期
　土壙墓８、方形周溝墓１

③ 古墳時代～鎌倉時代
　包含層

④ 奈良時代～平安時代
　土壙墓１

⑤ 鎌倉時代
　土壙墓１、溝１

⑥ 江戸時代～明治時代
　井戸３、土壙２

2．各時代の遺物

① 弥生時代前期
　甕棺、小型壷形土器２点、碧玉製管玉４点

弥生時代中期
　甕棺、小型壷形土器（丹塗り）３点、小型鉢形土器（丹塗り）、丹塗研磨土器（瓢形壷、広口壷、台付甕、高坏、袋状口縁壷）

弥生時代後期
　甕棺

② 古墳時代
　土師器小型丸底壷、須恵器坏蓋・高坏、飯蛸壷

③ 奈良時代～平安時代
　須恵器甕・高坏・高台付坏、土師器甑、中国製白磁

④ 鎌倉時代
　中国製青磁鎬蓮弁文碗

⑤ 江戸時代～明治時代
　瓦質土器湯釜、土師質土器焙烙、古伊万里碗・皿、唐津焼摺鉢、高取焼秉燭、窯道具、鞴羽口、土鈴

Ⅳ　弥生時代

1．甕棺墓

63基を検出した。内訳は成人棺22基、小児棺36基である。このうち前期は４基、中期42基、後期10基である。

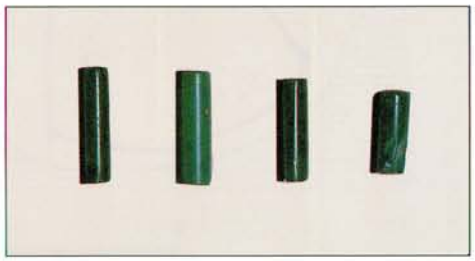
合口の方法は、接口棺29基、呑口棺２基、覆口棺８基、単棺６基、特殊棺２基である。器形の組み合わせ方法は、接口式では甕＋甕、台付甕＋甕、蓋＋甕、呑口式は、広口壷＋甕、壷＋甕、覆口式では広口壷＋小型甕、鉢＋壷、壷＋壷である。

単棺は、頭蓋骨を埋納した小型特殊棺を除き、大型甕棺である。

前期甕棺 ST04　下甕

①　前期甕棺墓

ST04は、下甕の口縁部を打ち欠いており、下甕内からは碧玉製の管玉が４個出土した。他の甕棺からは、副葬品は出土していない。



ST04下甕内出土碧玉製管玉

②　中期甕棺墓

ST47は、小型の甕を下甕に用い、これを覆う形で丹塗りの広口壷を上甕にして接合した甕棺である。この遺跡の小型棺には、丹塗り土器を多用しており、同じ例は他にST18・30・41等の甕棺が存在する。

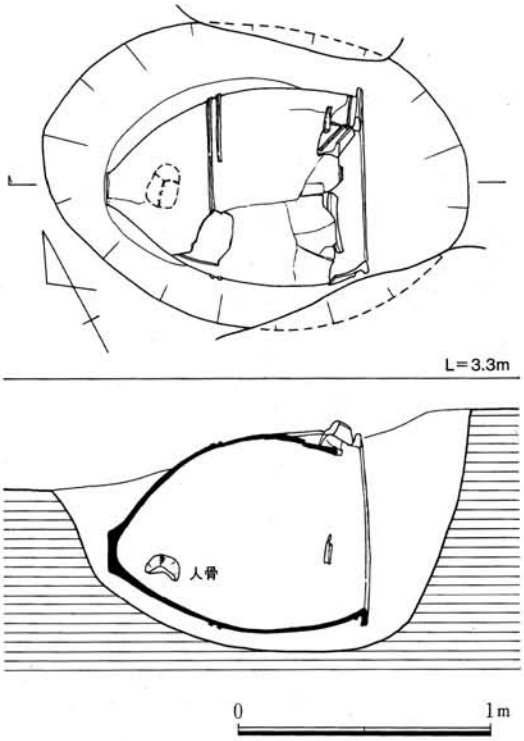
その他６基の甕棺墓から人骨が出土した。

丹塗土器の甕棺墓 ST47出土状態（北東から）

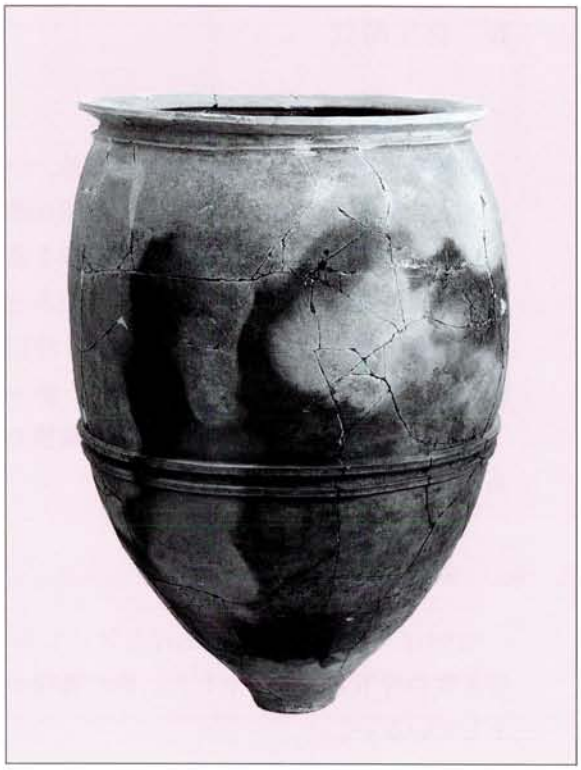
小児甕棺 ST18　上甕

小児甕棺　ST41

小児甕棺 ST47　上甕



甕棺墓 ST17実側図（縮尺1/30）



成人甕棺 ST17

頭蓋骨埋納棺 ST15の状態（南西から）

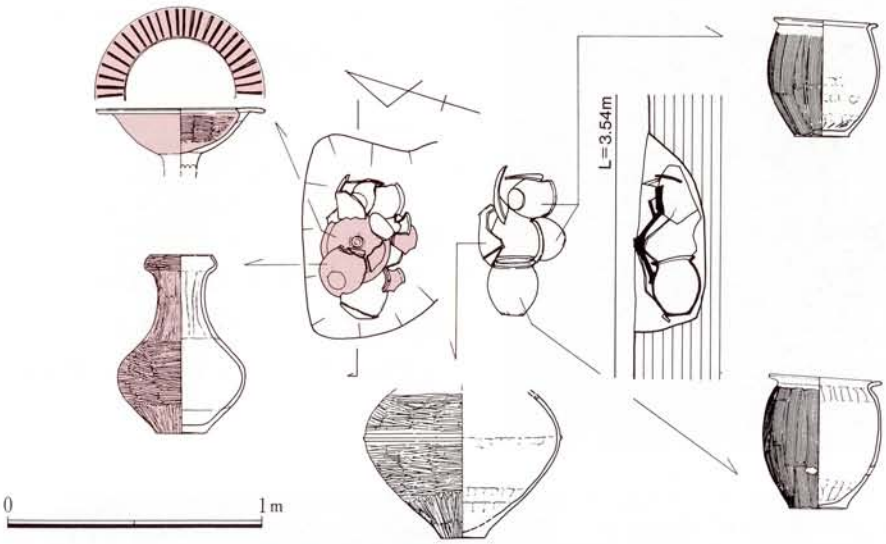
③　特殊小型棺

甕棺墓 ST12は、下甕に小型甕を用い、上甕に相当する部分には小型甕を半裁したものや壺形土器の大きな破片で囲って棺を作っている。棺の上部は、高坏の坏部や袋状壺形土器の大きな破片を被せて覆いとしている。他に類例として ST16がある。これは上甕の破損部に、高坏の坏部と甕の下半部の破片を用いて被せたものである。

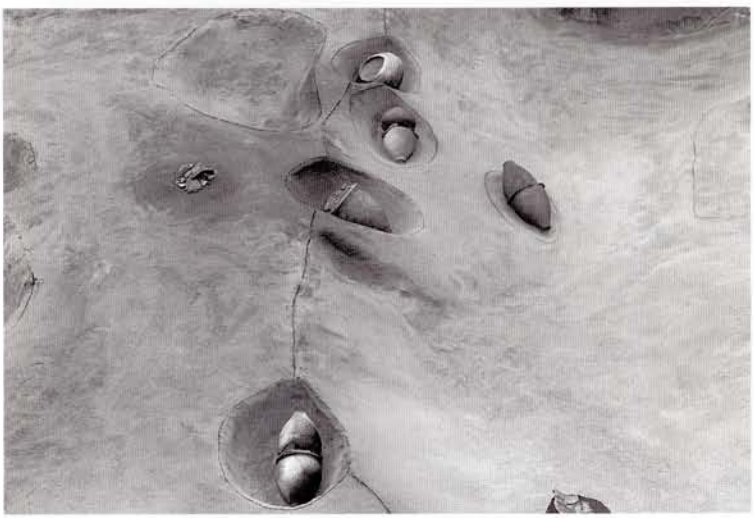
④　頭蓋骨埋納棺

甕棺墓 ST15は、不整楕円形の墓壙内に水平に置かれた単棺である。棺には、口縁部、及び頚部を不整に打ち欠いた甕形土器を用いているため開口部のあきが大きい。この甕棺の内部には頭蓋骨が納められていたが、蓋等の施設はみられなかった。この頭蓋骨は一部を欠いており、特殊な事情を示している。

特殊小型棺 ST12の状態（南東から）



甕棺墓ＳＴ12実測図（縮尺1/30）



方形周溝墓の溝を切った甕棺墓（東から）

2．方形周溝墓

SX17の全体形は、北側と西側が境界地に位置するため不明である。溝 SD01 は方形に巡らされており、北東隅が陸橋となっている。

溝の断面形は舟底状を呈しており、北側と西南側は浅くなる。溝幅は2.7ｍ～4.7ｍを、最大長は29.6ｍを測り、台状部上面の南北長は13.5ｍを測る。

主体部については不明であるが、台状部のほぼ中央に土壙墓 SX04が、北端部に前期甕棺墓 ST01・04等が存在する。

時期は明確ではないが、周溝の南側では中期甕棺墓 ST30・31・51に、東側では甕棺墓 ST06・14・19に、北側では石棺墓 SX12に切られる。又、前期甕棺墓 ST01・04と切り合い関係にある。

3．土壙墓

全体に遺存状況は悪く、墓壙を把握できる遺構は少ない。８基を検出したが、この内、前期は３基、中期は５基である。いずれも副葬土器がある。

① SX04は、平面形が隅丸長方形を呈し、長さ147㎝を測る。墓壙内には小型壷が副葬されていた。SX03・07も同じく平面形が隅丸長方形を呈し、小型の無頸壷を副葬している。

② SX10は、方形の墓壙内の二箇所から土器片がまとまって出土したが、これらの土器の周囲は黄色粘土で補強されていたことから、木棺墓の可能性がある。

土壙墓出土の小型壺

V　その他の時代

古墳時代から江戸時代までの遺溝・遺物を検出した。

管状土錘

時期は不明だが、調査区南側の黒色砂質土及び、暗褐色砂層内より150点出土している。長さは4.3～9.2㎝、最大径は1.4～2.5㎝の幅をもっている。

調査区遠景（北から）

例　言

(1)　本書は福岡市早良区藤崎２丁目におけるテナントビルの建設に伴い、高取二丁目遺跡調査会が、実施した発掘調査の概報である。

(2)　発掘調査は福岡市教育委員会文化課（当時）が実施し、事前審査の塩屋勝利、井澤洋一両名が担当した。

(3)　本書掲載の写真は、遺構を井澤、遺物を飛高憲雄、吉田扶希子が撮影した。航空写真は国土地理院の許可を得て掲載した。

(4)　本書では遺構略号をSK（土壙）、SX（墓）、ST（甕棺）、SD（溝）とした。

(5)　題字は廣嵜香による。

(6)　本書の執筆は井澤が担当し、編集は、牛房綾子の協力を得て井澤が行った。

藤崎遺跡　第２次調査概報

福岡市埋蔵文化財調査報告書第496集
1997年（平成９）３月31日発行

発行　高取二丁目遺跡調査会
福岡市教育委員会
福岡市中央区天神１丁目8-1

印刷　㈱西部毎日広告社
福岡市中央区天神１丁目16-1